

カクモンハマキ

6月に広葉樹につくハマキムシ（幼虫）。最大長約20mm。背中中の斑点は黒く、後方では小さい。葉を先端から横長のロール状に巻く。

リンゴ、ナシ、クリでは害虫とされる。



1. 幼虫の巣。1990/6/15。新得町，ケヤマハンノキ。



2. 中齢幼虫，体長13mm。1992/6/27。新得町，ハルニレ。



3. 終齢幼虫，体長17mm。1992/7/3。2を飼育。



4. 雄成虫，体長7mm。2を飼育。

【学名】 *Archips xylosteanus*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道，本州；朝鮮半島，中国，ロシア，ヨ-ロッパ。

【特徴】

幼虫は終齢で体長18～20mm。頭部と胸脚は黒色。体は灰色あるいは灰緑色。前胸背楯は黒色，前半中央で褐色。肛上板（尾端背面）は黒色。刺毛の基板は胸部と腹部1節で黒色，腹部2節以降では中心が黒く周囲が環状に淡くなる。

葉を横のロール状に規則的に巻く点で他のハマキムシから簡単に識別できる。

幼虫はムラサキカクモンハマキに似るが，この種では刺毛基板の周囲が淡くなることはない。また，葉を縦にロール状に巻く。

【生態】

ヤナギ科，カバノキ科，ブナ科，ニレ科，バラ科，ミズキ科など様々な広葉樹の葉を食べるという。

年1回発生，卵越冬といわれている。北海道の低地では終齢幼虫が6月中から下旬に採れ，飼育したところ7月上から中旬に成虫が羽化した。

【被害と防除】

リンゴ，ナシ，クリの害虫といわれる。他の樹木では発生量は少なく，防除は必要とされない。北海道ではクリで多発した記録はないようである。

【文献】

1957. 江崎悌三ほか. 原色日本蛾類図鑑（上）：I-XIX, 1-318, pls 1-64. 保育社，大阪.

1969. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑（下）：I-VI, 1-237, pls 1-68. 保育社，大阪.

1975. Yasuda, T. The Tortricinae and Sparganothinae of Japan (Lepidoptera: Tortricidae) (II). Bull. Univ. Osaka Pref., ser. B, 27: 79-251.

1977. 奥野孝夫，田中寛，木村裕. 原色樹木病害虫図鑑：I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社，大阪.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol.1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社，東京.

1986. 山口昭，大竹昭郎，編集. 果樹の病害虫，診断と防除. 全国農村教育協会，東京.（形態，生態，被害，防除）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

カクモンハマキ hamaki/kakumon/
kaisetuh.htm

「文章」原秀穂，北海道立林業試験場，1991/4/11-2001/8/22.

yochusu.JPG, 1yochu1.JPG, 1yochu2.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～4」原秀穂，北海道立林業試験場，1990-1992.